
With You
～みつめていたい～


With You
~みつめていたい~

With You
～みつめていたい～



ある日突然いなくなった
初恋の人……
俺はどうしてあの電車に
追いつくことが
できなかったのか



そして俺は
あの電車に追いつくために
陸上を始めた
もうひとりの幼なじみに
見守られながら……



あれから6年
初恋の人が帰ってきた
「もう一度みんな一緒に遊べるんだ!」
そのときは
無邪気にそう考えていた……



鳴瀬真奈美

Naruse Manami

6年ぶりに帰ってきた初恋の人

　主人公、伊藤正樹は6年前のある日から陸上を始めていた。そのある日とは、幼なじみであり、初恋の人でもある鳴瀬真奈美が突然海外へと引っ越していった日である。その日、正樹は真奈美の姿を探してホームを走ったが、結局彼女の乗る電車に追いつくことができなかったのだ。

　あれから6年。もうひとりの幼なじみの菜織に見守られながらも続けていた陸上だが、真奈美に追いつくことができなかったという思いも薄れ、走ることをやめようかと考えていた。そんなとき、初恋の人、真奈美が帰ってきたのである。想い出の人との突然の再会。しかし、その出会いが正樹の心にひとつの変化を与えたのだ。初恋の人か、自分のそばにいてくれた人か。狂おしいまでの選択の結末は、ペンダントだけが知っている……。



いつもそばにいてくれた幼なじみの人

Hikawa Naori

氷川菜織

ストーリー紹介

5月29日金曜日
真奈美ちゃんが帰ってきた

　菜織に無理やり連れてこられた部活も終ったとき、グラウンドの隅にひとりの女の子が立っていた。その女の子はどこかで見かけたような顔……。と、その瞬間、6年前の出来事が思い浮かんだ。俺が陸上を始めるきっかけ、そして俺の初恋の人、真奈美ちゃんだ！　昔と違って眼鏡をかけてはいるけど、まぎれもなく真奈美ちゃんだ。懐かしさのあまり、そのあと真奈美ちゃんと菜織の3人で帰るときに、真奈美ちゃんと初めて出会ったときのことを思い出してうわの空になってしまった。

5月30日土曜日
真奈美ちゃんの家のお片づけ

　昨日の夜に真奈美ちゃんから電話があったとき、引っ越しの荷物があまり片づいていないということを聞いたので、今日は部活を休んで手伝いにいくことにする。もちろん菜織には内緒。だけど、菜織も手伝いに来ることになって結局バレることになってしまった。
　3人がかりでなんとか荷物も片づけ、ちょっとひと休みしたとき、真奈美ちゃんがウーロン茶と一緒に砂糖を持ってきてくれたのはなんとなく嬉しかったな。真奈美ちゃんは俺が小さいころ、砂糖がないとウーロン茶を飲めなかったことを覚えていてくれたんだ。
　そして明日は、真奈美ちゃんのお誘いで、3人そろってミャンマー展に行くことに決定。ちょっと楽しみだな。

5月31日日曜日
ミャンマー展に行った

　昨日あれほど言っておいたのに菜織は寝坊。結局現地で合流することに。



⬆真奈美ちゃんと一緒に入った喫茶店で、小さいころにウチで食べたパフェの話になる。あのころは食べきれなかったんだ。

しょうがないヤツだ、と思いつつ、真奈美ちゃんとふたりでミャンマー展を見ることにする。展覧会は民族品や実演販売など、さまざまなものが展示されていたが、真奈美ちゃんとふたりで気になったのが“縁切りの精霊”を象徴する装飾品だ。これを見た真奈美ちゃんは、いったい何を感じたのかなぁ？



⬅引っ越してきたばかりの真奈美ちゃんの家には、荷物ばかりで散らかり放題。結局、菜織と3人で片づけてもかなりの時間を要した。



➡あらかたの荷物を片づけたあと、ふたりが手料理を作ってくれることに……。食べられればいいけど。



⬅真奈美ちゃんの着付けで菜織がロンジーを着てみた。似合わないわけじゃないけど、俺としては巫女服の印象が強いな。

5月28日木曜日
菜織と賭けをする

　今日は、菜織に言われて久しぶりに陸上部へ顔を出したのだが、何日ぶりかの練習メニューは結構ツラかった。しかも、それを見ていた菜織に「レギュラーになれない」とまで言われてしまったのだ。そして、なんやかんやと菜織と言い合っているうちに、レギュラーになれるかなれないかで賭けをすることになった。俺がレギュラーになれたら、菜織は俺の家の喫茶店でアルバイト。もしもなれなかった場合は、その喫茶店で菜織にケーキ食い放題を1ヵ月プレゼント。まぁ、勝てる勝負だな。
　帰りに雨が降ってきたが、悲しいことに今日は傘を持ってきていないのだ。そこで菜織の傘に入れてもらうことに。ちょっと傘が小さくて菜織の肩が雨でぬれそうだったから、ちょっとずつ菜織のほうへ傘を傾けてやる。

5月30日土曜日
部活に出てからお手伝いへ

　昨日の部活が終わるころ、突然真奈美ちゃんが現われたのにはビックリ。菜織も一瞬、真奈美ちゃんとは思えなかったらしい。そして今日はその真奈美ちゃんの家で、引っ越しの片づけを手伝うことにする。菜織との賭けがあるので、もちろん部活に出てから。菜織に勝つためにも1日も休めないのだ。

5月31日日曜日
菜織、結局寝坊

　今日は真奈美ちゃんと菜織との3人でミャンマー展に行く……はずなのに、約束の時間になっても菜織が来ない。しょうがないので迎えに行ってみると、ちょうど菜織が出てくるところだった。まったく、何をやってるのか……。
　ミャンマー展に行くと、ミャンマーの民族衣装、“ロンジー”の試着コーナーがあり、真奈美ちゃんの着付けで菜織が試着することに。似合わないわけじゃなかったけど、菜織には巫女服がイチバンよく似合っていると思うな。

ういずゆー こぼればなし

一部の人は昔のチラシなどで知っているかもしれないが、『絆』や『絆という名のペンダント』、『For You』と、タイトルが色々と変化している。最後にはスタッフで250個くらいのタイトル案を出して、現在のタイトルへと落ち着いているのだ。

うぃずゆー こぼればなし

スタッフがみんなで出し合ったイベントアイディアのひとつ、真奈美との必勝祈願イベントは、初めて出場した陸上競技会で勝てなかった悔しさから、神社へ必勝祈願に行ったという実体験から生まれたらしい。しかも、その競技会の結果はアレだったのだという……。

6月1日月曜日
真奈美ちゃん初登校

真奈美ちゃんは今日から、俺たちと同じ学校に通うことに。しかも、同じクラスというのはちょっと嬉しいぞ。あと、昨日のミャンマー展にいた馴れ馴れしい女の人が、実は今日から臨時にやってくる英語の先生だとは思わなかった。しかも、その天都みちる先生は真奈美ちゃんとミャンマーで面識があったそうだ。なんとなく、世の中って案外せまいものだと感じる瞬間。

放課後の部活の途中、真奈美ちゃんが学校を探検しているのを見かけた。ひとりだと不安だろうし、迷ってしまうといけないので俺が学校内を案内してあげることにする。部活はちょっと休憩中、ということにしておこう。



➡引っ越しの疲れからか眠る真奈美ちゃん。ちょっと恥ずかしい気分だ。



➡スケート場で一緒に滑っていたら、おおいかぶさるように転んでしまった。カッコワリィ……。

6月3日水曜日
山のような英語の宿題

みちる先生の授業中、出された問題に答えることができなかったおかげで、イヤになるほどの宿題を課せられることに。こういうときに頼りになるのは……やっぱり真奈美ちゃんかな？　ちょっと悪い気がするけど、手伝ってもらおう。

放課後、俺の家で真奈美ちゃんに助けられながらある程度宿題を片づける。そして、ちょっと休憩している最中に俺の昔の写真の話になったんだ。でも、今度は俺の昔の写真だけでなく、真奈美ちゃんがミャンマーにいたころの写真を見てみたい気がするな。



⬅突然みちる先生に出された英語の宿題を、辞書片手にがんばる。真奈美ちゃんはそのお手伝いだ。

6月7日日曜日
アイススケートに行く

昨日、真奈美ちゃんをアイススケートに誘ったらオーケーの返事。菜織も誘ってはみたけど、今日はダメらしい。ということつもりでもあったので、日曜日に菜織と一緒に買い物に行くことに決まる。

6月1日月曜日
賭けは俺の勝ち！

放課後、部活に出ると陸上部のレギュラー発表があった。結果、俺は3年生の橋本先輩と一緒にこのSt.エルシア学園の正選手に選ばれたわけなんだけど、朝練や練習メニューのことを考えるとあまり素直に喜べないかも。だけど、菜織との賭けには勝ったんだ。真奈美ちゃんを家まで送ったあと、早速菜織へ報告しよう。

で、菜織の家の十徳神社へやって来たのだが、なんで俺が境内の掃除を手伝わなきゃならんのだ!?　おまけに菜織も、勝負していたことをはぐらかそうとするし……。でも結局、菜織に明日から俺の家の喫茶店でアルバイトすることを認めさせたぞ。



➡菜織がうちの制服を着たところを初めて見たけど、あまり違和感がないな。

6月3日水曜日
菜織に足を見てもらう

今日、菜織が俺の足にあるつぶれたマメの治療をしてくれた。ふだんから応急セットを持ち歩いているところが保健委員らしくていいな。あと菜織は、このマメは俺のスパイクが原因だと言ってきた。まぁ、そろそろ買い換える

6月4日木曜日
菜織のマッサージ

部活に疲れて家に帰ってくる。疲れが相当たまっているらしく、まだ夜の9時くらいだというのにとても眠たい。と、考えていたらアルバイトを終えた菜織が部屋にやってきて俺の身体をマッサージしてくれることに。最初は痛かったけど、だんだん身体がぽかぽかしてくる。今日はよく眠れそうだ……。



➡菜織がマッサージをしてくれるのは嬉しいのだが、なんちゅー格好でやっているのだか……。

ストーリー紹介



←本棚に本を戻すだけの作業だけど、かなりの数があるから真奈美ちゃんひとりだけだとツライよね

で真奈美ちゃんとふたりっきりのデートになったのだ。スケート場では、何度か転んだりして迷惑をかけちゃったけど、真奈美ちゃんは楽しんでくれたかな？　楽しんでくれたなら、またどこかへ誘って案内してあげよう。

6月11日木曜日

真奈美ちゃんたちとカラオケ

今日の昼、3年生の人たちが真奈美ちゃんのことを言いに来た。サッカー部の柴崎という男とあまりベタベタしないでほしい、ということだったけど、どういうことなんだ？　真奈美ちゃんはそんなことをする人じゃないぞ。

そして放課後、部活が終わったあとで図書室へ遊びに行くと、真奈美ちゃんと菜織と俺の3人でカラオケに行くことに。だけど、真奈美ちゃんは本棚の整理がまだ終わらないというので、とりあえず手伝ってあげることにした。

6月15日月曜日

エルシア学園七不思議

お昼休み、みんなで昼食をとっていると、話の流れでみんなして夜の学園に出没する謎の影を探そうということになった。ミャーコちゃんを筆頭にして冴子や乃絵美、そして真奈美ちゃんと菜織に俺を含めた6人で夜の学園に来たのだが、結局謎の影を探すという当初の目的からはずれて、学園の七不思議を探ることに。もちろん、そんなものはでたらめで何もなかったんだけど、最後の最後で俺のうしろに何かが出たらしい。まわりに流されるまま、俺は慌てて真奈美ちゃんと一緒に逃げ出したが、そのときに工事中の穴に落ちてしまったのだ。不安がる真奈美ちゃんと肩を寄せ合い、元気を出すために昔のことをふたりで語り合う。懐かしい話はいつしか自分の気持ちの話になり、お互いの今の心を確かめ合う。そして俺と真奈美ちゃんは、初めて唇を重ねたのだった。





←真奈美ちゃんの手伝いをしているとき、足をくじいてしまった。あとにひびかなければいいが……。

6月5日金曜日

チケット2枚をムダにする

乃絵美から、今度の日曜日まで有効のアイススケート無料チケットをもらった。だけど7日の日曜日は、菜織と横浜へ買い出しに行くので、乃絵美には悪いが今回はパスさせてもらおう。

6月9日火曜日

明日のために練習をする

先週の月曜日、先輩と俺のふたりが今週末の大会に出場するレギュラーに決まったのだが、先日、参加枠が突然ひとり分減ってしまったのだ。そこで、明日先輩と俺とで勝負をして、正選手を決めることになっている。先輩相手に手を抜きたくはない。練習メニューをこなしたあとも、ちょうど来ていた菜織にタイムを計らせて自主トレをする。その後、自主トレも終えて帰ろうとしたとき、菜織が俺の背中から手をまわしてきたのだ。そしていつもと違う励まし方をする。俺にひと言だけ、「がんばれ正樹……」と。

6月10日水曜日

レギュラー選抜の日

今日の部活で、大会へ向けてのレギュラー選抜のために先輩と勝負をした。結果、俺が勝ったのだけど、勝敗の結果うんぬんより、先輩の言ったひと言には考えさせられてしまった。「お前は、なんのために走ってる？」そう、俺はなぜ、誰のために走っているのだろう。

6月11日木曜日

足をひねってしまったようだ。

俺と菜織と真奈美ちゃんの3人で今日はカラオケに行くことになったのだ。だけど、真奈美ちゃんの図書委員の仕事がなかなか終わらないようなので、菜織も呼んで手伝うことにする。そのときちょっとしたアクシデントから、足をひねってしまったのだ。明日になれば治るだろうから、菜織にはだまっておいて心配させないようにしよう。



鳴瀬真奈美

Naruse Manami



ちょっと天然ボケなところもあるが、よく気がきく心優しい女の子。ただ、その反面では内罰的なところがあって、何か悪いことがあると、その原因が自分にあるのではないかと考えてしまいがち。そのためか、6年前の突然の別れのことも、ずっと後悔していた。現在の彼女の望みは、6年前のように正樹らと一緒に過ごすこと……。

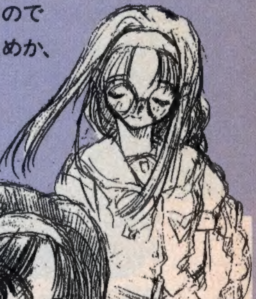


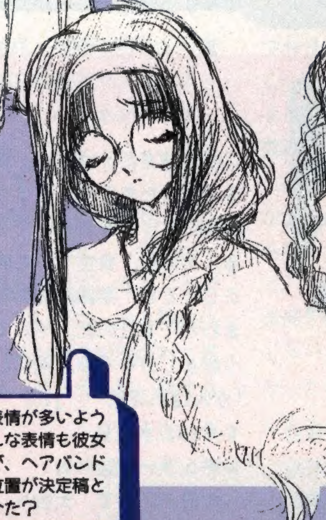
清楚なイメージの真奈美には、裾が長めのオーバースカートなどが似合うよね。でも、意外とオーバーオールやジャンプスーツなんかも似合うかも?

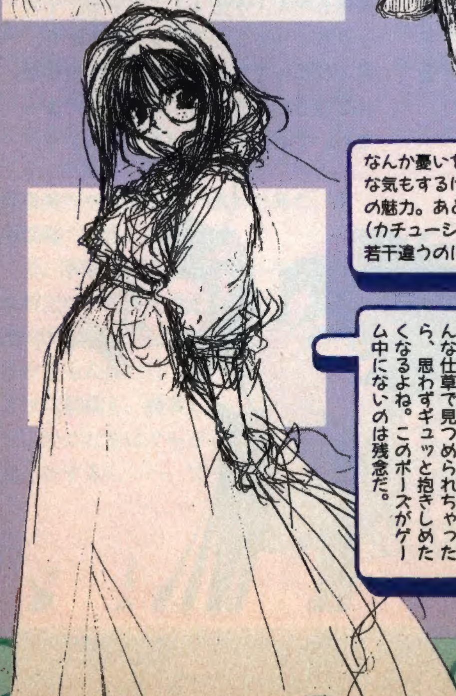


ゲーム中では見ることができない、拳を握り締めた真奈美。おとなしい真奈美のこんなポーズを見ることができるのも、ラフ設定画ならでは、って感じかな。











なんか憂いを含んだ表情が多いような気もするけど、そんな表情も彼女の魅力。あと余談だが、ヘアバンド(カチューシャ?)の位置が決定稿と若干違うのに気がついた?

おねだりポーズ!? 真奈美にそんな仕草で見つめられちゃったら、思わずギュッと抱きしめたくなるよね。このポーズがゲーム中にないのは残念だ。

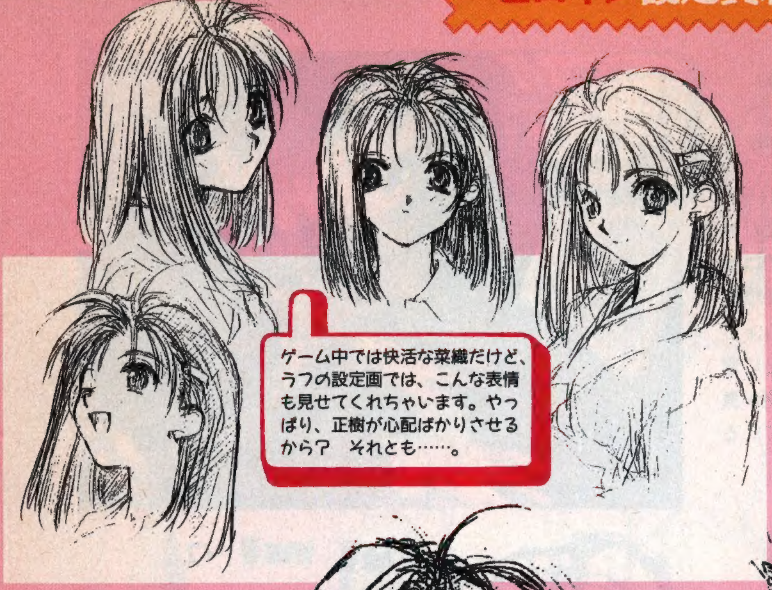
ういずゆーこぼればなし

「With You」の企画段階プロットでの女の子の登場数はたったの4人。真奈美、菜織、みよか、そしてチャムナだけだったのだ。また、開発者が一番最初に浮かんだシーンは、真奈美がチャムナを学校の屋上から蹴り落とすところ。はたしてどんな物語だったのか!?

スタッフからひと言

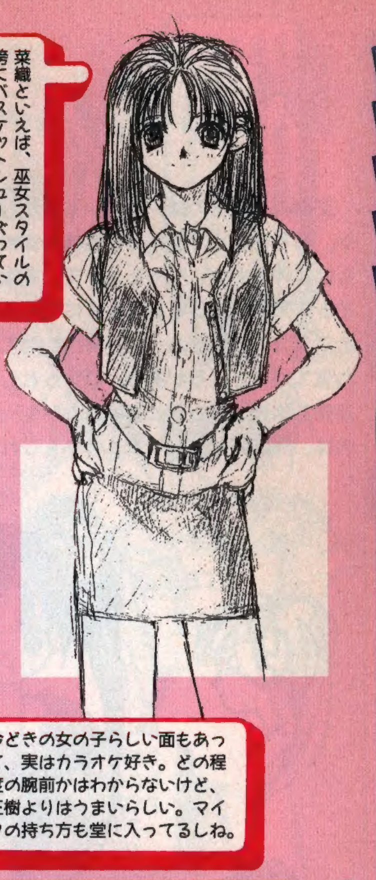
真奈美をデザインする段階で、メガネっ娘がヒロインというのが珍しく、よく不思議がられていました(まぁ、一部では趣味とか、陰謀説が囁かれていますが秘密)。しかし、従来のパターン化されたヒロインにしたくはなかったことと、過去の幼いころの真奈美との外見上の違いを持たせるためでもあるんです。ただ、個性が強いほかのキャラとのバランスが取れているかが、ちょっと心配でした。

シナリオ担当:草薙 こうたろう



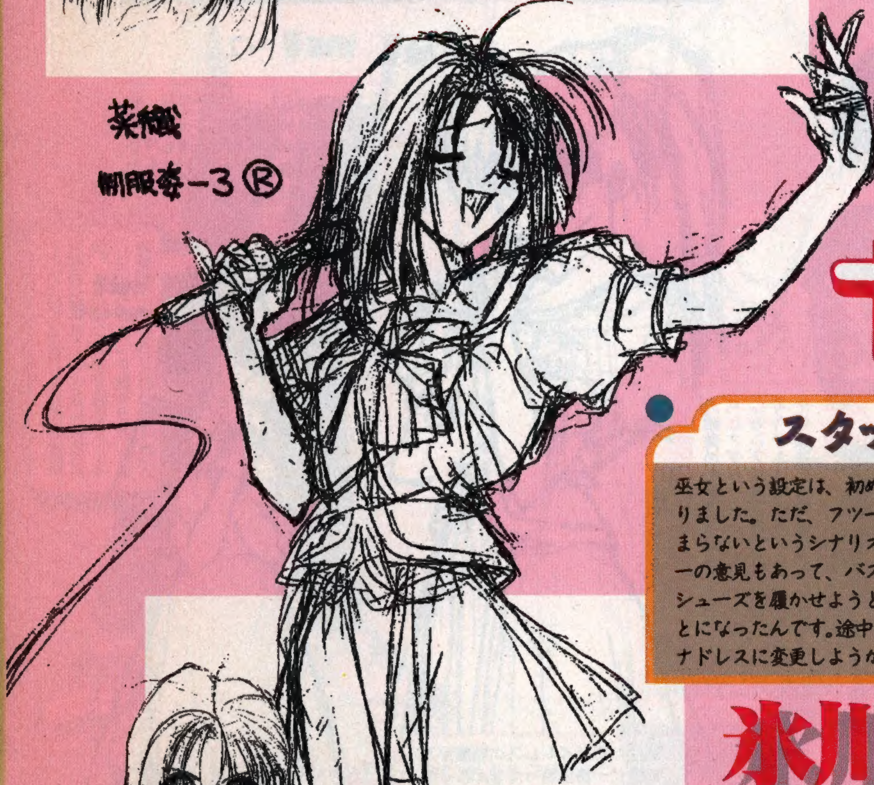
ゲーム中では快活な菜織だけど、ラフの設定画では、こんな表情も見せてくれちゃいます。やっぱり、正樹が心配ばかりさせるから？　それとも……。

菜織といえば、巫女スタイルの袴にバスケットシューズっていうイメージが強いよね。でも意外にラフ設定画では、私服や制服が多かったりするのだ。



うぃずゆー こぼればなし

開発初期のころは選択肢の下のほうに、そのときの主人公の心のセリフを描写する、という素晴らしいスペースがあったのだ。思案メッセージとダミーで書いてあるスペースに、いつ文字入るのか？と、スタッフが楽しみにしていたが、諸事情で消滅したのは秘密とのこと。



今どきの女の子らしい面もあって、実はカラオケ好き。どの程度の腕前かはわからないけど、正樹よりはうまいらしい。マイクの持ち方も堂に入ってるしね。

スタッフからひと言

巫女という設定は、初めからありました。ただ、フツーじゃつまらないというシナリオライターの意見もあって、バスケットシューズを履かせようということになったんです。途中「チャイナドレスに変更しようか？」など、いろいろ案が出たのですが、初期のイメージを大切にしたかったので、そのまま通しました。自分的にも、キャラの性格がよく出せたデザインに仕上がったので、気に入ってます。
原画：橋本 タカシ



お控えなすってー　じゃなくって、正樹を睨みつける菜織。上目使いなのが、これまた怖い!?　でも、菜織になら、怒られてみたいっていう人も少なくないんじゃないかな。

氷川菜織

Hikawa Naori

父が神社の神主、母が神社の一角にある幼稚園の園長という家庭で育った菜織は、面倒見のよいお姉さんタイプの女の子。そのせいか、幼なじみの正樹に対しても、口うるさくお説教することもしばしば……。そんなやりとりをクラスメイトの美亜子には、姑みたいとからかわれたりもする。しかし、それも正樹のことを想うがゆえなのだ。



伊藤乃絵美

Ito Noemi

正樹の１歳下の妹。小さいころから病弱だったためか、おとなしくて控えめな性格の女の子。最近では少しは身体も丈夫になったようで、実家の喫茶店でウェイトレスの手伝いをするようになった。また、ちょっとブラコンの気があって、異性に対する理想を兄に重ね見ているところがある。ひょっとしたら、正樹が真奈美と菜織のどちらと結ばれるかを一番気にしているのは、乃絵美だったりするのかもしれない。



実は乃絵美は妹じゃなかった!! そう、最初は角屋乃絵美というまったくアカの他人キャラクターだったのだ。おまけにエッチもナシー そんな事には耐えられない! というスタッフの声に、妹として再デビューすることに。スタッフの一念が岩をも砕いた瞬間である。

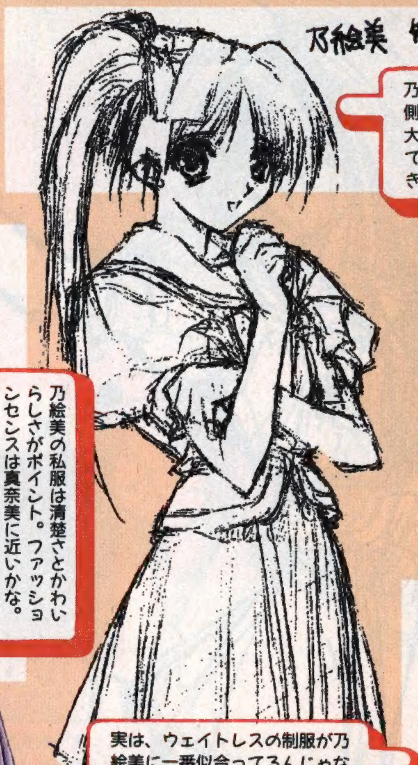






乃絵美の私服は清楚さとかわいらしさがポイント。ファッションセンスは真奈美に近いかな。そういえば、委員会も一緒だったりするし、共通項は多いかも。

乃絵美の私服の別バージョン。ゲーム中には出てこなくても、ちゃんと設定画はあるものなのです。やっぱり女の子のファッションは大切だからね。



乃絵美のトレードマークは、右側でまとめた変則ポニーテール。大きなリボンともマッチしていて、乃絵美のかわいらしさを引き立てているよね。



実は、ウェイトレスの制服が乃絵美に一番似合ってるんじゃないのかな。こんなかわいい看板娘がいれば、喫茶店も繁盛間違いなしってものでしょう。

スタッフからひと言

わはははははっ、私が乃絵美を妹役に推した犯人だ。やっぱ萌え萌え〜!! 時代は今、妹が旬!! あの流れる黒髪、真白き肌に、物静かな態度、つぶらな瞳い！ そんな瞳を潤ませて、「お兄ちゃん」って言われようものならアナタ、生唾ごっくんものでしょう。そうです、乃絵美ちゃんは永遠の妹像なんですよ。身体が弱いところなんかもポイント高いぜ!! こんな妹に「お兄ちゃん好き」って言われてみたい!!
グラフィック：4駄TEN





ちょっとビックリ顔の冴子。着ているものが私服だから、これは夜の学校探検(?)のシーンかな。ふだんがふだんだけに、冴子のこんな表情は貴重かも。

冴子はラフ設定の段階から、ほとんど変化がない。クールな目もともゲーム中とバッチリ同じ。逆に胸もとはゲーム中より寂しげな感じがするけど……。

腕組みポーズは、冴子の基本!? ポーズのせいもあるんだろうけど、胸が強調されているような気がしなくもない。それとも、制服のデザインのせいかな?

私服は、ゆったり目のパーカーにジーンズという動きやすいもの。とにかく身体を動かすことが好きなスポーツ少女の冴子は、ファッションよりも実用性重視。

うぃずゆー こぼればなし

初期に作ったプロットでは、田中冴子は江戸川区から横浜までマウンテンバイクで通学して来るという設定だった。実はラストシーンでも、冴子とマウンテンバイクが活躍するプロットがあったのだという。ちなみに、冴子の実家は江戸川区で寿司屋をやっているのだ。

スタッフからひと言

冴子の魅力は、竹を割ったような性格ではないのです。男の子のような言動から誤解されやすいですが、その裏に女の子らしいナイーブな感性を秘め、常に一歩うしろから友人たちを見守りたいという控えめなところがあるのだと思っています。そのため、ちょっぴり寂しい思いをしてしまうことがあるでしょうが、美亜子の元気さでずいぶん救われているのでしょう。だからこそふたりは友人なのかな。
作画・演出:松本規之

田中冴子 Tanaka Saeko

ハンドボールに燃えるスポーツ少女! 性格は、チャキチャキの江戸っ子気質の姐御肌で、面倒見もいいタイプ。そして、ボーイッシュな外見もあってか、下級生の女の子から妙な人気があったりする。また、正樹とは同じ運動系の部活動仲間で、練習の合間に正樹の様子を見に来ることもしばしば。ちなみに、おばあちゃんっ子で、オバケが苦手というかわいらしい面もあったりするのだ。



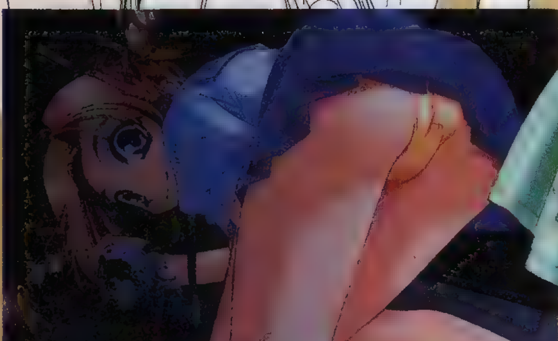
信楽美亜子
Sigaraki Miako

流行に敏感でミーハー。しかも、お祭り好きといったクラスでも一番の元気娘。自分のことを、愛称の〝ミャーコちゃん〟と言うオチャメさんだ。思考は非常にポジティブで、けっして物事を悪く考えない楽天家。明るい言動で、みんなを引っ張るムードメーカーになっている。また、自称報道部(学校非公認)のレポーターとして、スクープになるような事件を探し、学園内を飛びまわっているのだ。



ラフ段階だと、美亜子のトレードマークのオサゲがなかったりする。オサゲがないと、ちょっと大人っぽく見えるよね。キミはどっちの美亜子が好き?

美亜子にしては珍しく、眉をひそめている。何かよくない話をしているのか? それとも誰かのスキャンダルか? 案外ただの怪談話だったりして。





クリーンアップされた状態で、CGになる直前のもの。シャツの胸元にプリントされた、ディフォルメHELL HOUND(地獄の魔犬)がプリティー!

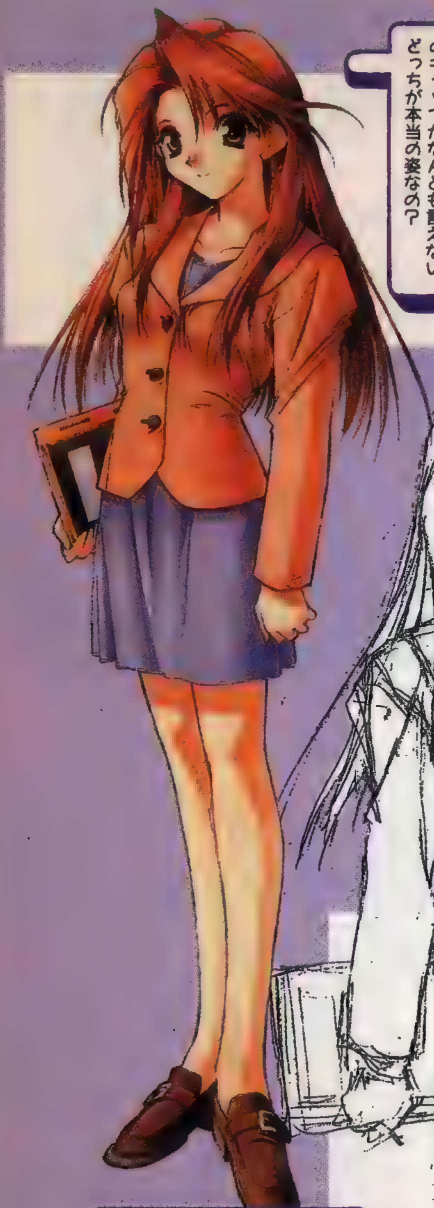
ラフ設定画の注釈には、コートの生地関係も書かれている。こういう何げないモノが、CGを描き起こすときには必要になってくるんだよね。

スタッフからひと言

ミャーコちゃんの魅力といえば、やはり持ち前の明るさと誰とでも仲よくなれる気さくな性格でしょう。彼女がいなければ菜織たちの学校生活は、退屈な毎日だったかもしれないですね(トラブルは少なくなるかな?)。また、楽しいことはみんなでという彼女の基本方針は、ときには暴走もしますが、それをなんとなく許せてしまうのも、彼女の人となりでしょう。もしかしたら一番面倒見のいい娘なのかも。グラフィック:攻牙沙

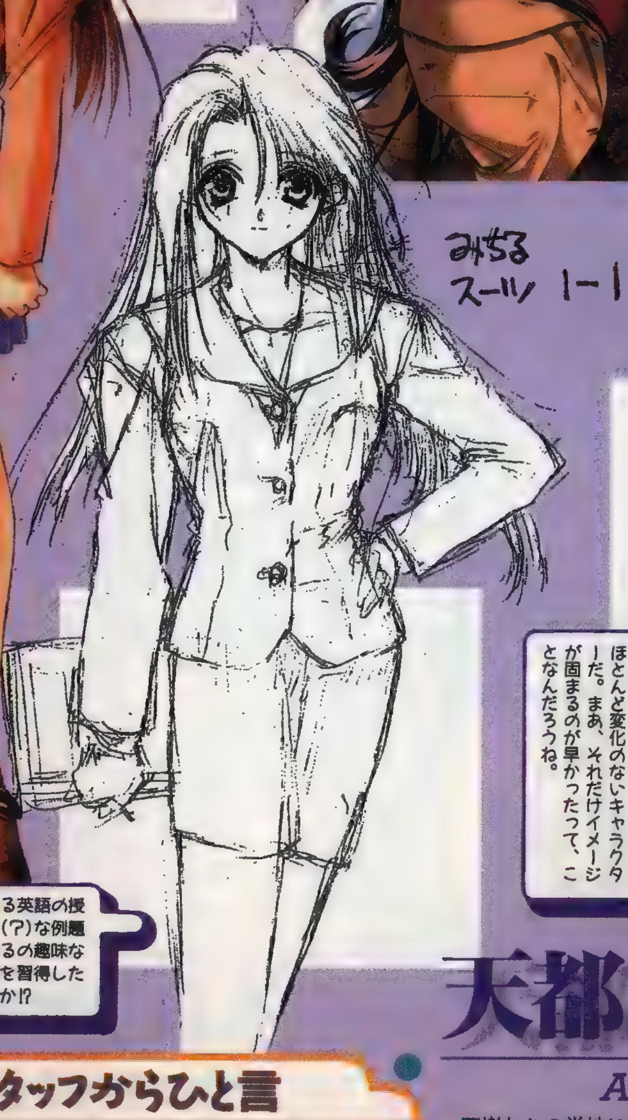
ういずゆーり こぼれぼなし

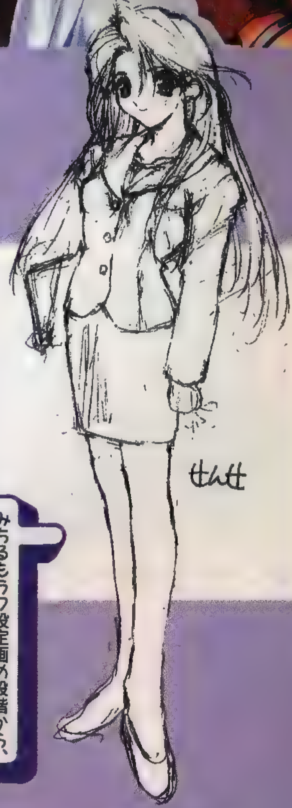
信楽美亜子、田中牙子の名字は東○バスの中刷り広告を見たスタッフが、そこからいただいたものだという。実際、乃絵美にも角屋という名字があったのだが、プロットの変更で結局ボツに。信楽、田中、角屋とくれば、わかる人にはわかる東京のとある地名の由来だ。



落ち着いた中にも華がある、みちるらしいいでたち。ゲーム中に出てくる、ハデハデな私服とのギャップがなんとも言えない。どっちが本当の姿なの？







みちるもラフ設定画の段階から、ほとんど変化のないキャラクターだ。まあ、それだけイメージが固まるのが早かったって、ことなんだろうね。

なぜかみちるの教える英語の授業では、ブロウクン(?)な例題が出まくり！　みちるの趣味なのか、それとも英語を習得した環境によるものなのか!?

ういずゆー

乃絵美が妹ではなく、角屋乃絵美としてアカの他人だったころ、主人公の設定では怖いお姉さんがいるということになっていたのだ。名前は〝伊藤摩耶〟というOLのお姉さんで、主人公はシスコンという設定。はたしてどんなストーリーだったのだろうか!?

天都みちる

Amamiya Michiru

正樹たちの学校に英語の臨時教師としてやってきた、ちょっと謎めいた大人の女性。人見知りしないほがらかな性格で生徒のウケもいいが、授業を聞いていない生徒には容赦なく大量の宿題を与えることで恐れられてもいる。また、教鞭を振るうかたわらで、本業の考古学の勉強も欠かさない。図書館で頻繁に目撃されるのも、本業の調べもののためらしい。

スタッフからひと言

みちる先生は、今でこそ茶髪ですが、初期設定段階での髪の色は紫でした。しかし、ほかのキャラに黒髪系が多くて、全体のバランスを取るために、みちる先生に犠牲になってもらったわけです。ありがとう、みちる先生！　出番少ないけどね(泣)。でも、結果的に適度な大人っぽさが強調されて、年上好きのユーザーさんもオーケーなキャラになったのではないかと思います。いかがなものでしょうか？
グラフィックチーフ：武内よしみ

チャムナ・フォン

Chamuna Von

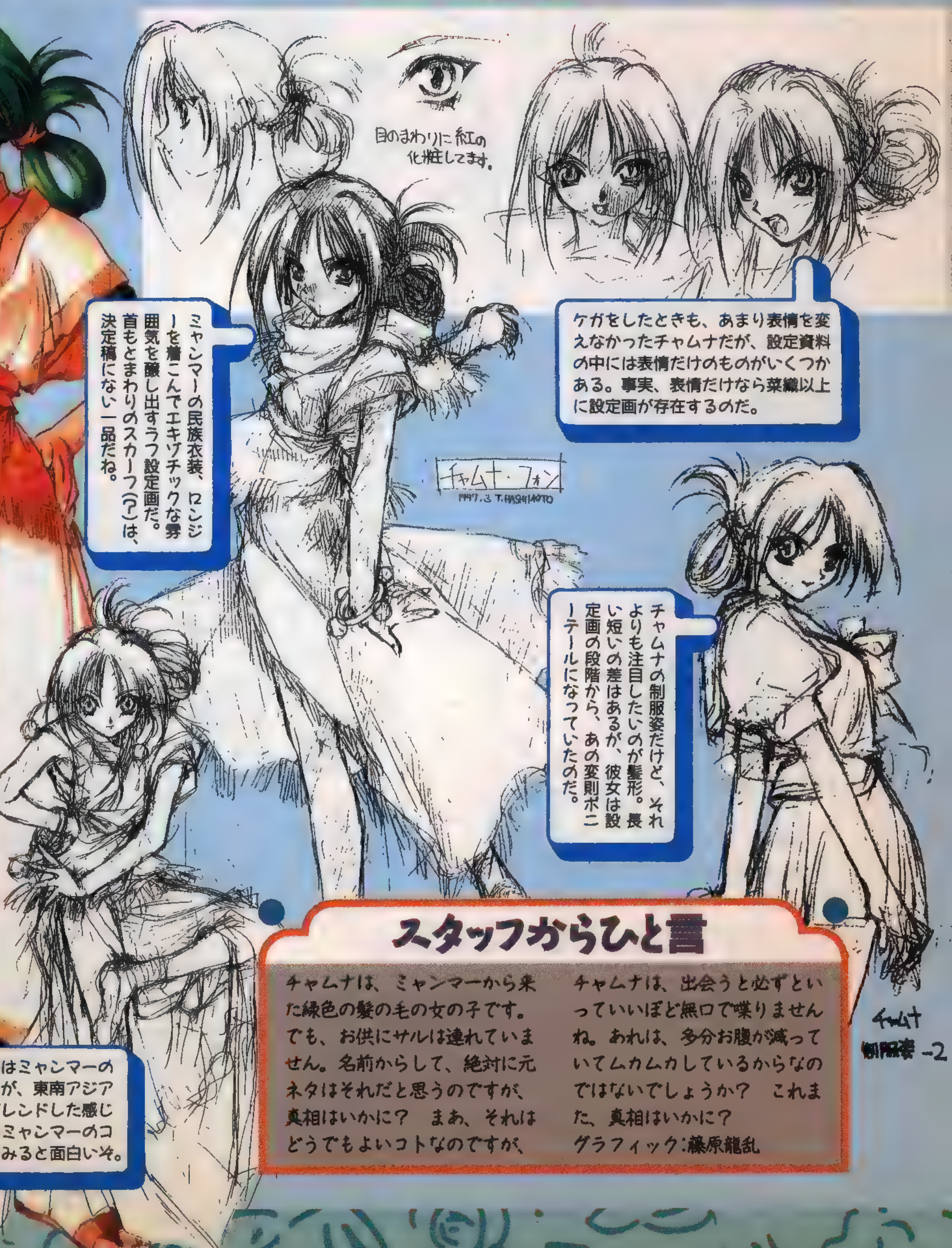
ミャンマーからやって来た転校生というチャムナ・フォン。まだまだ日本の習慣や生活に不慣れなのか、混み合う学食でパンを買うとか焼きそばパンはイッキにかぶりつくという日本の伝統(?)になじめないでいる。また、最初のころは言語などの問題があるのか、あまりしゃべらないキャラクターだが、何度か会話を交わしていくと、いつの間にか流暢な日本語をしゃべれるようになっている。案外努力家の人なのかもしれない。



ういずかりー こぼればなし

「気がつくと開発室には、オープニング主題歌の『みつめていたい』を口ずさんでいる人間がいる。それがとてもかわいく思える。修羅場のときの開発の人間はそれくらい壊れてた」というのは、開発の人間の弁。ちなみに、この付録の担当も口ずさみながら原稿書いています。





ケガをしたときも、あまり表情を変えなかったチャムナだが、設定資料の中には表情だけのものがいくつかある。事実、表情だけなら菜織以上に設定画が存在するのだ。

ミャンマーの民族衣装、ロンジーを着こんでエキゾチックな雰囲気を醸し出すラフ設定画だ。首もとまわりのスカーフ(?)は、決定稿にない一品だね。

チャムナの制服姿だけど、それよりも注目したいのが髪形。長い短いの差はあるが、彼女は設定画の段階から、あの変則ポニーテールになっていたのだ。

チャムナの衣装はミャンマーのロンジーなのだが、東南アジア諸国の衣装をブレンドした感じもある。巻末のミャンマーのコラムと比較してみると面白いぞ。

スタッフからひと言

チャムナは、ミャンマーから来た緑色の髪の毛の女の子です。でも、お供にサルは連れていません。名前からして、絶対に元ネタはそれだと思うのですが、真相はいかに？　まあ、それはどうでもよいコトなのですが、チャムナは、出会うと必ずといっていいほど無口で喋りませんね。あれは、多分お腹が減っていてムカムカしているからなのではないでしょうか？　これまた、真相はいかに？

グラフィック：篠原龍乱

6年前のある日

俺は先生から、真奈美ちゃんが今日行ってしまうということを聞かされ、慌てて駅に向かって走る。しかし時すでに遅く、駅に着いたときは真奈美ちゃんは電車でまさに旅立つ瞬間だった。

電車に向かって走るが、ホームで足を滑らせ、ぶざまに転がった瞬間に電車は俺の手の届かないところまで走っていた。膝の痛み、心の痛み、そして喪失感が、俺の全身をふるわせた。

＊　＊　＊

真奈美ちゃんとは、幼稚園の遠足で知り合った。当時から俺の親は喫茶店の切り盛りで忙しく、遠足の当日、母さんが乃絵美と一緒に風邪をひいて寝込んでしまったのだ。結局親父は看病と店番のため、俺ひとりで遠足に行くことに。別に遠足だから親がいようといまいと関係ないと思っていたけど、楽しそうに弁当をかこむ友達を見ていると、自分がひとりだということに気づかされる。そしてそれが寂しいという感情だとはまだ子供心には難しく、ただただ心細さでいっぱいだった。

俺は園長先生たちとお弁当を食べることになった。俺は親父が作ってくれたホットサンドウイッチの詰まったでかいタッパーを開ける。そのとき、向かい側に座る女の子が目についた。その子は、コンビニで一番安いノリ弁当を細々と食べていた。お茶もコンビニの小さなお茶で、お菓子を持ってきている様子もない。

「ねぇ、一緒に食べようよ？」

「えっ？」

思わず俺は女の子に声をかけた。その子に俺は、ひとりでは食べきれない量のホットサンドをフタに載せて渡す。

「あ……、ありがとう……」

「いいよ。結構いっぱいあるんだ」

「うわぁ……すごいね」

その女の子は、大きなリボンをつけたパッチリとした瞳の女の子。寂しげな瞳が少し潤み、口元がかわいく開く。

「あ、いっぱいあるからもっと食べていいよ。僕ひとりじゃ食べきれないし」

「うん……。ありがとう」

どうしてこの子は両親が参加していないのか。コンビニのお弁当なのか、ちょっと不思議に思ったけど、その女の子は嬉しそうに、ホットサンドを食べてくれるので、俺は聞くのをやめた。

それ以来、俺と菜織と真奈美ちゃんは一緒に遊ぶようになった。菜織の家の境内で日が暮れるまで毎日のように。そして、菜織はいつも一番が好きらしくて、先頭をきってなんでもやりたがる。だけど真奈美ちゃんは、その菜織のハイペースについていけず、いつも俺たちのうしろから、チョコチョコと追いかけてくるのだ。そんなとき俺は、真奈美ちゃんと手をつないで菜織を追いかける。真奈美ちゃんは嬉しそうに握る手に力を込めてきた。

そのとき俺は、こんな時間がいつまでも続くと思っていた……。

＊

泣いていた。真奈美ちゃんが悲しい瞳をしているのに、俺は何もしてあげられなかった。ただ、そばにいてあげることぐらいしか、俺にはできなかったんだ。でも、このままではそれすらもできなくなる……。真奈美ちゃんが引っ越してしまうなんて……。

人気のない、古い神社の社。俺と真奈美ちゃんの秘密の場所。真奈美ちゃんは足をくじいたようだけど、助けを呼ぼうにもここには滅多に人は来ない。それに今助けを呼んだら、真奈美ちゃんは確実に引っ越して行ってしまう。足をくじき、寒さと心細さで震える真奈美ちゃんと一緒にいてあげることが、今自分にできる一番のことだ。だけど、どうしたらいつまでも真奈美ちゃんと一緒にいることができるのか。今の自分にはわからなかった。ただ、混乱する頭の中で、俺は真奈美ちゃんのことが好きなんだと感じた。

＊　＊　＊

「ねぇ……、どうしちゃったの？」

「……。（追いつけなかった……。なんで黙って行っちゃうんだよ!!）」

「ねぇ……元気出してよ」

傷だらけで戻ってきた俺を、菜織が心配そうにのぞき込む……。だが、そのときの俺は菜織に応える余裕はなかった……。あのときからだ。菜織が俺に執拗に絡むようになったのは。ぽっかりと空いた心の隙間を、優しく埋めてくれるように。そして走り始めたのもちょうどこのころだ。想い出の彼方で微笑む真奈美ちゃんへ向かって、伝えきれなかった言葉をいつか伝えたい。

そのときに向けて……。





ういずゆー こぼればなし

このページにある物語は、『With You』開発スタッフに書いていただきました。なので、オフィシャルなもの……だと思います。オリジナルの原稿はもっと文章量が多いのですが、ここではある程度抜粋してあります。

SAKURA

この物語の登場人物たちが住む町、桜美町。このページでは、その町の様子をイラストにしてみたぞ。

下のイラストを見てもらうとわかる通り、海が見え、港もあり、小高い丘もあり、森も広がるという環境のよさ。しかも横浜駅まで電車で約30分と、市中心部へのアクセスの便利さもある。また、活発な地元の商店街や大型ファ

St.エルシア学園

正樹や真奈美、菜織たちが通う学校。歴史は古く、大正時代に設立され、今でも学校内のいたるところにその歴史を感じさせる旧校舎などの建物が残っている。また、市立の図書館よりも蔵書が多い図書室は、一般の人たちにも解放されている。



↑エルシア学園の旧校舎。すでにこの校舎は使用されておらず、現在取り壊しのための工事をやっている。



←エルシア学園の敷地はかなり大きく、大学のキャンパスのように緑豊かな環境が整えられている。

桜美町駅前

桜美町で一番開発の手が入っている場所で、駅前ロータリーや桜美商店街へ続くアーケードなどが整備されている。また、駅前にある屋外大型液晶テレビは大きくてとても目立つため、待ち合わせによく利用されている。



↑駅ビルには大手のファッションデパートが入るなど、まさに桜美町の中心的建物。

横浜駅

言わずと知れた神奈川県の県庁所在地。桜美町駅から電車で約30分というアクセスや、スポーツ用品などの品揃えのよさから、正樹や菜織、美亜子らもよく利用しているようだ。また、ミャンマー展もここでやっていた。



↑左手の奥のほうには横浜ベイブリッジが見えることから、どうやらここは山下公園らしい。



ういずゆりこぼればなし

泊まり込んでいたデバッグチームの最大の敵は、毎朝早朝になるとやってくる掃除のおばちゃんだという。朝、眠りに入ったデバッガー達を笑顔で容赦なく掃除機の騒音で叩き起こす!! それでもデバッグ終盤になると、騒音をものともせずに寝られるようになったらしい。

MI Map

ッションデパートが駅前に進出していることで、買い物には不自由しない。

なお、この町には丘がふたつあり、ひとつは十徳神社が、そしてもうひとつの丘にはSt.エルシア学園がある。しかも、大きな建物などがないので、物語中に正樹や真奈美、菜織の口から十徳神社や学校の屋上からの眺めが抜群であることが語られるのである。

十徳神社



桜美町にあるふたつの丘のうち、ひとつを占有する神社。丘の中腹に社と社務所があるほか、境内の一角に氷川幼稚園がある。また、丘の頂上には旧十徳神社があるが、昭和の初期ごろから参拝する人は少なくなり、今ではめったに人が訪れない。



⬆真奈美と正樹が秘密の場所にしていた旧十徳神社。今では訪れる人も少ない場所だ。

➡菜織はこの広い境内や社務所などを、毎日ひとりで掃除している。かなりの重労働だ。



桜美商店街

正樹の実家である喫茶店や、田中冴子が下宿している煎餅屋、そして信楽美亜子の実家であるBARがある商店街。駅前の開発とは無縁のようだが、商店街の結束が固くて、再開発の手が出せないのが実状らしい。



⬆主人公の実家もそうだが、この商店街には昔からあるお店が多く、下町的な雰囲気が漂う。

喫茶l'omelette

正樹とその妹、乃絵美の実家。明治時代から代々続いてきた老舗喫茶店で、乃絵美や菜織が着ている制服が古めかしいのはそのせいだと思われる。また、一部の常連にはコーヒーの配達もやっている。



⬅昔のなごりからか、店の奥のほうにはピアノが1台置いてある。

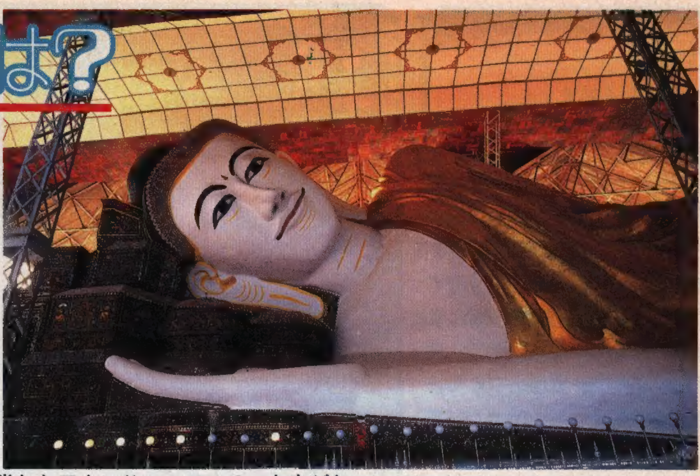
ういずゆー こぼればなし

『With you』全キャラ中、CG着色のバストアップで全身像があるのは脇役のみよかだけ。劇中ショックを受けたみよかがアップから一気に引くという効果が計画されたが、残念ながらボツってしまい、結局使われたのは上半身だけ。もったいない話だ……。

うぃずゆり こぼればなし

ミャンマーとは？

『With You～みつめていたい～』のヒロイン、真奈美が6年間住んでいたというミャンマー。このページではそのミャンマーについて説明しよう。



⬅バゴーにある寝釈迦仏。ミャンマーの主な宗教は仏教で、ほとんどの国民は敬虔な仏教の信徒である。

ミャンマーの地理、風土

国土面積は約68万平方キロメートル。と言われてもピンとこないだろうが、日本の国土面積を2倍して、ちょっと引いたくらいがその面積だ。その国土の60パーセント近くを森林が占め、またミャンマーのほぼ中央にエヤワディ(イラワジ)川が流れ、多くの自然が残されている。ミャンマー展で真奈美が言っているが、雪は降らない亜熱帯気候と熱帯気候のふたつが、ミャンマーの主な気候。あとは少々乾燥地帯が広がる程度である。

ミャンマーの歴史

17世紀に興きたコンバウン王朝が、19世紀にイギリスとの三度にわたる戦争によって滅亡。以後、イギリスの植民地と化すが、1930年代に反英独立運動が活発化。それに目をつけた日本の陸軍が、独立運動支援のためということでビルマ(当時)に侵攻していく。結局、日本の敗戦後の1948年まで、本当の独立は果たすことができなかった。1989年、ビルマ連邦からミャンマー連邦へと国名を変更したのは有名だが、その背景にある前年の夏に全国で起きた民主化運動や、国軍によるクーデターなどは知らない人のほうが多い。日本人には、太平洋戦争を題材とした映画の『ビルマの竪琴』や、ノーベル平和賞を受賞したアウンサン・スーチー女史がなじみの深いところだ。



➡マハビジャヤパゴダ。手前には民族衣装、ロンジーを着た人が何人かいるのがわかる。

ミャンマーの宗教、風俗

『With You』の物語中では、精霊信仰だけしかクローズアップされていないが、実際には国民の約85パーセントが敬虔な仏教徒という仏教国。国内のいたるところにパゴダ(仏塔)があり、雄大な自然とパゴダとの調和は、人の心を優しく、美しく感じさせる。

また民族衣装のロンジーだが、これも物語中で触れている通り、伝統文化のひとつとしてミャンマーの人間に愛されている。また、この国では肌を人前で露出させないという風習があるので、天都みちる先生が普段着のままミャンマーへ行くと、眉をひそめられることうけあい。誰にも相手にしてもらえないのである。

東南アジアの国々としては治安はよく、夜間に日本人が外出しても比較的安全と言われているのは、彼らが穏やかで自然と仏教を大切にした生活を送っていることと無関係ではないだろう。



⬆ミャンマー最大の聖地、チャイティヨー仏塔。落ちそうで落ちない岩がポイント。

ミャンマーの言語

公用語はビルマ語だが、英語がかなり普及しているので、それほど不便なく旅行できるはず。ちなみにビルマ語でおはよう、こんにちは、こんばんはの挨拶は共通で「ミンガラバー」という。日本語に訳すと〝幸あれ〟といった意味で、ミャンマーの仏教的な部分をかいま見ることができる。

このページで付録は終了ですが、最後にひと言。この付録をとめてあるホッチキスをはずして表紙を取れば、あーら簡単、リバーシブル表紙になるではないかー　ホッチキスの穴が開いていることさえ気にしなければ、ポスターとして使うことも可能だぞ!!



ミャンマーいいとこ一度はおいで♡

写真提供/ボンカラー・フォト エイジェンシー



E-LOGIN 11月号特別付録

平成10年11月1日発行(毎月1日発行) 第4巻 第11号 通巻37号

Printed in Japan

